

頑張るあなたを独りにしない

名古屋市議員

久田くにひろ

プロフィール

昭和58年12月31日生まれ。瑞穂区生まれ。陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。今年度は土木交通委員会に所属。

街頭活動

2,000回

12月20日時点



街頭活動は市民との交流の場。そこでいただいた声を、本会議で取り上げ、例えば、トワイライトでの長期休暇等の昼食提供事業のモデル実施や熱中症対策における避暑休みスポットの設置などに繋がりました。

2018年末頃から回数を数え始め、約7年かけての達成です。私は、2世でもなければ、大きな組織の後ろ盾もありません。市民の一人ひとりの声で成り立っています。だからこそ、市民一人ひとりと向き合い、見える関係を築きたいと思い、街頭活動を続けてきました。これからも3000回を目指してコツコツ頑張ります。

「日時」12月20日新瑞橋交差点にて
おかげさまで
街頭活動
2000回を
達成しました！

名古屋市議会11月定例会トピックス

家庭廃棄物等の持ち去りの防止に関する条例が全会一致で可決

施工期日は2026年4月1日（罰則部分は同年10月1日）

条例では可燃ゴミや不燃ゴミ、粗大ゴミなど全ての家庭ごみの持ち去りを禁止する。勧告、命令を経て、命令違反者に対して50万円以下の罰金に処する。一方で、集団回収団体が地域活動に還元するために行うアルミ缶回収は規制対象から除外とする。



土木交通委員会での調査事項

弥富相生山線の折衷案

方針

渋滞や入り込み交通の解消、災害時における防災機能など、地域の皆様から期待される多面的な効果を発揮させるため、一般車両も通行できるようにするとともに、ヒメボタルを始めとする自然環境の保全も重要なため、できる限り自然環境に配慮した対応を行う方針で整備を進める。

使い方

片側1車線の相互通行と片側歩道の整備。ヒメボタル繁殖時期における夜間の一般車両の通行を制限する。



① つなぐ（地域とのつながり）



② まもる（安心・安全）



③ ふれあう（人と自然とのふれあい）

地域に身近な公園の再生指針

開園から40年以上経過する公園が約6割となっている中、計画的に再生を進める必要があるため、6つの機能を活かした新たな再生方針を策定する。同年3月に公表予定。



他の地域からも人が集まり公園が賑い、活気あふれる場



多世代の交流が生まれ、地域の「〇〇したい」が実現できる憩いとくつろぎの場



子どもや保護者・保育者等が、遊具やボール遊びを楽しめる場



健康遊具や散策利用などによる健康増進の場



緑陰が確保され、生物多様性の向上、雨水浸透機能の確保など環境共生の場



オープンスペース確保や災害対応型施設の設置等により防災上の役割を果たす場



頑張るあなたを独りにしない

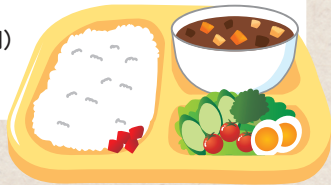
この想いを大切にして、
本会議個人質問に挑戦しています

01

トワイライトに おける長期休暇等 の昼食提供

共働き世帯の家事の負担軽減を目的として提案した結果、昨年度に5校、今年度に16校でモデル実施された。

(23年6月定例会本会議個人質問)



02

産後ケア 事業の拡充

利用要件の緩和、利用料金の軽減、対象者の利用期間の延長などを図り、産後ケアを必要とする人全てが利用できるよう求め、25年10月から求めた内容通りに拡充が図られた。

(23年11月定例会本会議個人質問)



03

不妊治療費 助成制度の創設

不妊に悩む方々の不妊治療における経済的負担を軽減し、希望される方が安心して受けられるようにするために、不妊治療における先進医療に対する助成を求め、早期の実施に向け、来年度の予算要求が行われた。

(25年9月定例会本会議個人質問)

04

ダブルケアの支援 (育児と介護の両立)

ダブルケアに関する理解が、行政職員や市民に広がっておらず、たらい回しを受け、孤立を深めたとの声を受け、ケアマネジャーへの研修内容の充実やパンフレット作成などを通じた広報・周知の拡充、いきいき支援センターの窓口で相談しやすい環境整備を求めた結果、同年中に求めた内容で対応が図られた。

(24年2月定例会本会議個人質問)



05

認知症の方への買い物支援

認知症の方が年を重ねても外出して人と交流し、楽しみながら買い物を自分で行うことで自信や役割を取り戻すための取り組み、スローショッピングの推進を提案し、より広がるための対策について具体的に検討することとなった。

(25年2月定例会本会議個人質問)

06

重度障がい児を育てる 保護者のレスパイト支援

保護者への負担を和らげるための休息が取れるよう、医療保険の適用を超える自宅や外出先での訪問看護を提供するレスパイトケアの実施を求め、25年10月から自己負担なしで利用できる制度で開始された。

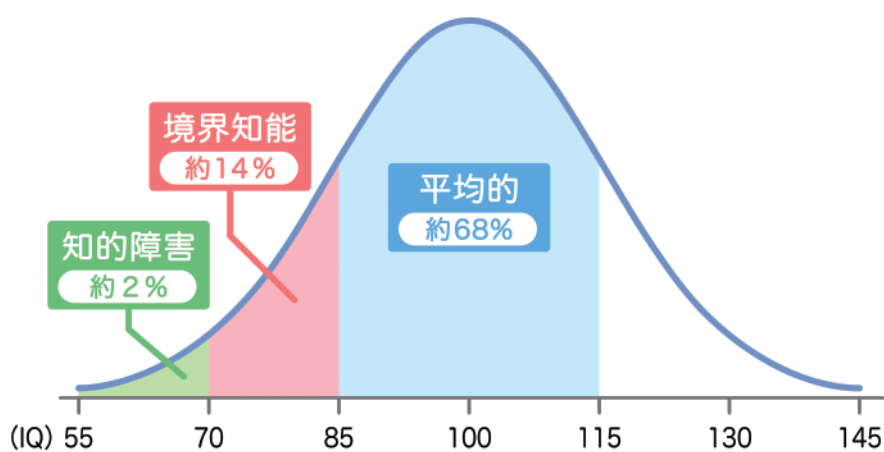
(24年9月定例会本会議個人質問)

久田くにひろ個人質問

11月定例会本会議

境界知能の疑いがある児童生徒への支援について

IQ分布



境界知能とは、知的機能の評価において、知的障害の基準には該当しないものの、平均的なIQの範囲よりも低い区分に位置付けられている状態のこと。

久田くにひろの質問

境界知能の疑いがある児童生徒には、学習面や行動面での課題が表面化しにくく、必要な支援や配慮を受けることが難しいケースが少なくない。障がいがある子どもの狭間で取り残されることがないように、支援する必要があるのではないかと。また、支援を充実するため教員への境界知能に対する理解促進が必要だと考えるが、いかがか？



子ども青少年局長の答弁



境界知能の疑いがある児童生徒を含む、特別な支援が必要な児童生徒について、ひとりひとりが困難を改善・克服することができるよう、必要に応じて通級指導教室など適切な支援に繋げていきます。また、教員への境界知能の理解促進については、学校へ配布する支援に関する手引きの必要な改訂を行い、周知していきます。教育委員会として、特別な支援が必要な児童生徒を取り残さないよう、学校における支援の充実に取り組んでいきます。

インクルーシブル教育を進め、誰一人として 取り残されないよう、支援の充実を

インクルーシブ教育の視点に立った答弁だと理解した。一方で、該当する人全員を等しく支援することは、新たなスティグマを生むことになりかねず、慎重になるべきである。しかし、実際に困りごとを抱えて、苦しんでいる児童生徒がいるため、ひとりひとりに着目し、支援を進めてほしい。



youtubeで配信中



11月定例会本会議の
久田くにひろ個人質問は
こちらから